

2016
TOKYO

The Games of the XXXI Olympiad Proposal to the Japanese Olympic Committee
第31回オリンピック競技大会開催概要計画書

東京都

2016年、再びこの東京でオリンピックを

オリンピックは、アスリートたちが鍛え抜いた肉体と技を披瀝する世界最大のスポーツの祭典であり、観客にとっては、アスリートたちの戦いによる最高の感動を体験できる絶好の機会です。

国を背負い、自らの存在を賭けて競い合う選手たちに対して、私たちは声をからし、あるいは心の奥底から声援を送り、彼らとの間に至福の一体感を生み出すのであります。オリンピックこそ、スポーツという肉体による無償の行為を介して、人間のアイデンティティーを確認できる稀有な瞬間に他なりません。

アジア初の東京大会から40年余り、東京は日本をけん引し、アジアの躍進をリードする世界有数の大都市に成長しました。今再び、この東京でオリンピックを開催し、日本の確かな再生と世界繁栄の大きな縁とするため、昨年秋、私はオリンピック招致を提案しました。アジアで初めてとなる2回目の東京オリンピックで、アスリートたちに最高のパフォーマンスの場を用意し、大きな感動と夢を全世界の人々と分かち合いたいと思います。

もとよりオリンピックは、国家的な一大プロジェクトであります。この開催概要計画書が、日本オリンピック委員会のみならず、国を挙げての賛同や、多くの都民・国民からの支持を得ることを切望してやみません。



2006年(平成18年)6月30日

東京都知事

石原 尚子

アジアで初めてとなる 2回目のオリンピックを東京で

オリンピックは、アスリートたちが鍛えぬいた肉体と技を披瀝する最高の舞台であり、観客にとっては最高の感動を体験できる絶好の機会です。

アジアで初めてとなる2回目のオリンピックで、アスリートたちに最高のパフォーマンスの場を用意し、大きな感動と夢を全世界の人々と分かち合います。

■ 東京開催の意義

かつて停滞するオリエントであった東アジアは、日本の戦後復興を端緒に、今や世界で最もダイナミックに発展を続ける地域に変貌を遂げています。

グローバル化と地域主義の流れが同時に進行する中で、近年では、EUの拡大、アメリカの再生とともに、東アジアが全世界から注目を集めています。

東アジアが開かれた地域として連携を深めるとともに、そのポテンシャルを十分活用することが、世界に繁栄と平和をもたらす大きな契機となります。

その中でも日本は、戦後60年以上にわたって、他国と一度として戦火を交えることもなく、内戦を起こすこともなく、徹底した平和を貫いてきました。

また東京は、近代都市としての歴史の過程で、震災、戦災、テロ、さらには大気汚染、交通渋滞といった大都市問題など、様々な事態に遭遇し、その都度全力で克服してきました。都市の拡大・成長のステージを経て、東京が数多くの難問を乗り越えてきた姿を明らかにし、世界の諸都市に範を示すことこそが、オリンピックが担う新しい使命です。

欧米諸国ではこれまで、オリンピックを同じ国でも同一の都市でも数回開催することが繰り返されてきました。東アジアの飛躍的に高まったプレゼンスを背景に、東京がここまで成熟を遂げてきたことの大きい証として、欧米の地域以外で初めて2回目のオリンピックを開催します。



都市文明の英知と日本の技を オリンピックで表現

オリンピックは、いかなる時代にあっても、「スポーツを通じた人間の調和のとれた発達と平和な社会の推進」という根本原則を、その時代に即した形で具体化したものでなければなりません。

このため、東京は3つの基本理念を掲げ、都市文明の英知と日本の技を結集したオリンピックを開催します。

■ 東京開催の基本理念

1 東京をさらに成熟した都市に発展させ、 都市と地球の未来を拓きます



2 日本が誇る最先端技術と独特の 感性や美意識を融合させ、新しい 価値を創出します

3 次代を担う子どもたちにスポーツの夢と 喜びを広め、オリンピックが生み出す 有形無形の財産を未来に引き継ぎます

ひとつの地球

スポーツの祭典を通してつながる世界

■ 大会の精神

東京の最大の魅力は、様々な文化や歴史が、人々の活動に織り重なりあう中で、創造性と活気生まれる、多様性に溢れる成熟した都市であることです。

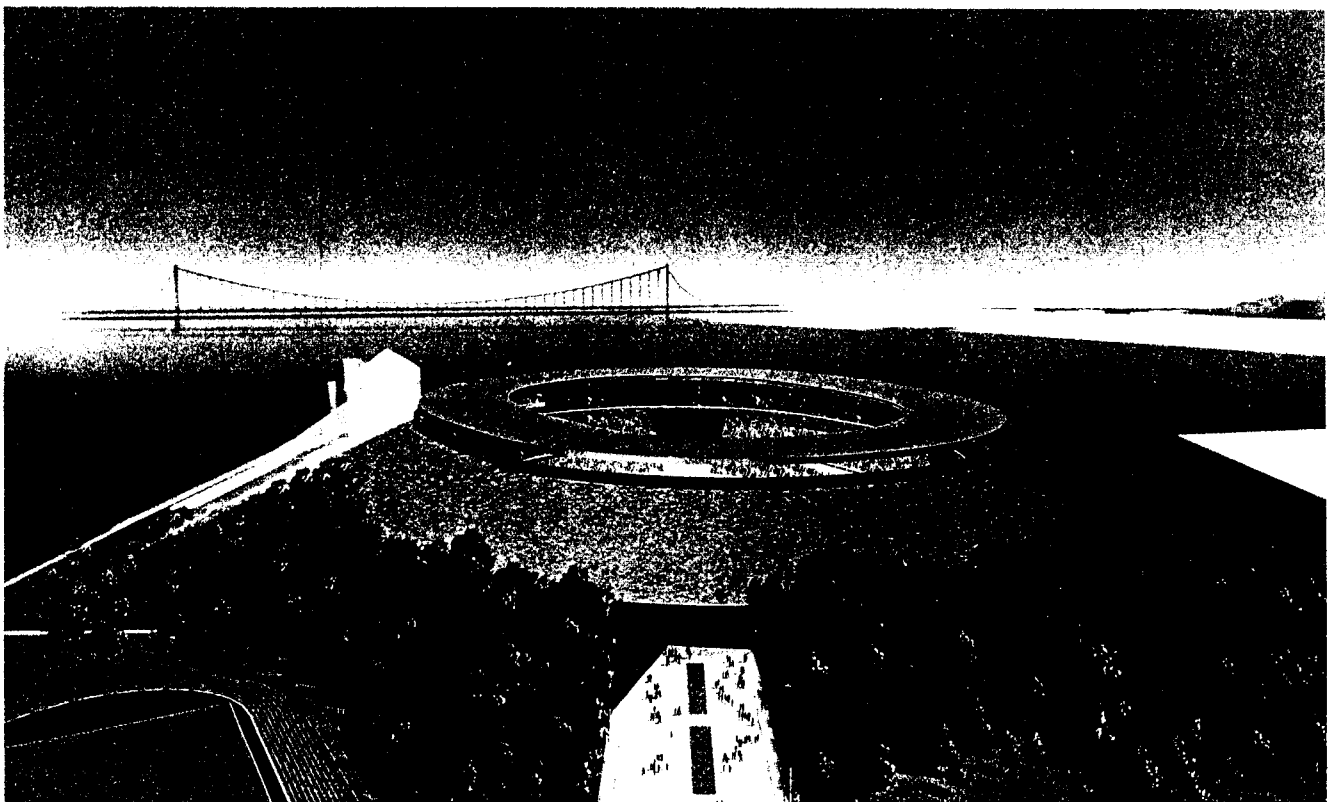
そして、この多様性を尊重する「礼儀」の文化が日本にはあります。競い合うもの同士の礼儀、国同士の礼儀、歴史への礼儀、自然への礼儀。違う立場のもの同士が共に生き、高め合うために必要なのが「礼儀」です。世界から多くの人が集まる東京ほど、洗練された「礼儀」を持つ都市は他にありません。

また、冷戦構造崩壊後の混迷と対立の中、世界が「文明の衝突」ともいべき事態に直面している現在、それを乗り越えていく手段は、コミュニケーションしかありません。国家や民族という枠組みを超えて、世界のアスリートが一堂に会するオリンピックは、スポーツを通じて世界が切磋琢磨し、心を開き、理解しあうことができる場であるべきです。そのため、東京大会は、勝利至上主義よりも「礼儀」を基本的な精神とする大会にします。

2016年の東京大会では、この「礼儀」を軸にして、今までの発展拡大する都市で行われてきた「つくるオリンピック」のあり方から、新たな時代に向けて、成熟した都市文明の英知を世界のネットワークに重ね合わせていく「つなぐオリンピック」のあり方への転向を目指します。この延長線上にはスポーツを通して世界を考える地球人としての意識があります。

また、東京でのオリンピック開催に当たっても、主要施設において海と陸とをつなぎ一体的に活用する「都市と海とのネットワーク」や、1964年東京オリンピックの資産をできるだけ活用し、未来にオリンピック精神を引き継ぐ「歴史のネットワーク」など、様々なネットワークを確立します。

世界に開かれた地球都市東京を舞台として、時代に即した形でオリンピックの根本精神を具体化し、確実に次の世代に継承していくため、次ページ以降の基本コンセプトを定めます。



■ 大会コンセプト

世界一コンパクトな大会

東京しか持ち得ない集中と集積のメリットを最大限に活かし、世界一コンパクトで高密度な大会を実現します。

都心の半径10km圏内に、サッカーのグループリーグ及びセーリングを除くすべての競技（28競技中26競技）が可能な施設や選手村、メディアセンターを配置し、オリンピックの新基準を提示します。

[公共交通のネットワーク]

- 各競技会場と選手村を20分以内で結び、移動距離と移動時間の短縮により、選手が競技に集中し記録を狙える最高の環境を提供します。
- 羽田空港は沖合に整備される新しい滑走路によりさらに拡張が進み、国際定期便の運行が強化されます。
- 大深度地下の活用により整備される東京外かく環状道路など、3環状道路の整備を進め、通過車両の都心流入を抑制し、交通混雑の解消を図ります。
- 他都市の追従を許さない高密度な公共交通網などの充実した交通インフラの活用により、快適な域内モビリティを実現します。

[安全と安心のネットワーク]

- このコンパクトなエリア内には、宿泊施設、救急病院、消防署、警察署が集積しており、来訪者に、安全、安心、快適な滞在を約束します。

[歴史のネットワーク]

- 歴史に敬意を払い、未来にオリンピック精神を引き継ぐ大会とするため、競技会場の施設は、新設を2施設におさえ、1964年の東京オリンピックの施設を補強して活用します。こうした施設整備を通して、歴史の遺産を引き継ぎ、ものを大切に作る心を育み、次世代に引き継いでいきます。

〈施設整備の基本方針〉

1. 東京に集積する既存の競技施設、コンベンション施設を最大限活用し、新たな用地取得は一切行わず、施設の新設も極力抑え、経費の抑制や環境負荷の低減を図ります。観客席が不足する場合は、仮設スタンドを併設します。
2. 既存施設で対応できない場合は、仮設または改築、新築を比較考量したうえで整備方法を決定します。
3. 後利用が見込めない施設や原状回復が求められる会場については、撤去を前提とした仮設とし、高い稼働率や地域活力への寄与が見込める会場は、規模や設備等を検討のうえ改築または新築とします。



もてなしの精神に溢れ、
日本文化を堪能する大会

〔礼儀を通してつながる人の心のネットワーク〕

- 日本の「礼儀」の文化が世界の人々の心をつなげます。
- 日本人ならではのホスピタリティや江戸で培われた他人を思いやる伝統を発揮し、選手、関係者、観光客等を温かくもてなします。
- あらゆる世代、地域、企業等を巻き込み、地域力を活かして「もてなしの仕組み」を構築するとともに、社会貢献の意欲の高い多くの日本人がボランティアとして大会運営に参加できるようにします。
- 歴史と現代が交差した東京の景観や観光スポットを背景に、トップアスリートが最高の技を競う大会とします。
- 日本食はもとより、世界各国の料理を本国と同じクオリティで味わえる東京の利点を活かし、選手、来訪者に味覚の面でも最高の満足を提供します。
- オリンピック憲章に定める文化プログラムを策定し、地域に根ざした国際交流活動を展開するとともに、オリンピックの開催に合わせて、国際的な文化交流イベントを開催します。



オリンピック運動を大きく前進させ、
有形無形の財産を次代に継承する大会

〔スポーツを通じて結ばれる世界のネットワーク〕

- 日本の有能な指導者を世界各地へ派遣するとともに、世界各地の青少年が東京に集いスポーツの喜びを体験する機会を創出し、スポーツの喜びを全世界に広めます。
- これまでの政府開発援助(ODA)のあり方を抜本的に見直し、国際援助の質的転換を図るよう国に強く働きかけていきます(スポーツODAの創設)。
- オリンピック精神を、都市の発展にもスポーツの振興にも浸透させ、次の世代に確実に継承していきます。
- 大会終了後、オリンピック施設を、世代を超えてスポーツを楽しみ、健康を維持・増進するためのスポーツ振興の拠点として継続的に活用します。特にオリンピックスタジアムについては、アジアのスポーツ振興の拠点としての活用を検討します。
- 2016年、今世紀初頭に生まれた子どもたちは10代前半の青少年に成長しています。彼らが将来オリンピック選手になる夢を持てるよう、子どもの世界にスポーツを浸透させます。
- 日本の最先端技術を活用してフェアプレーを支え、アンチ・ドーピングの取組みを推進します。
- もう一つのオリンピックであるパラリンピックの基本精神「障害者の自立と社会参加」をさらに普及させます。

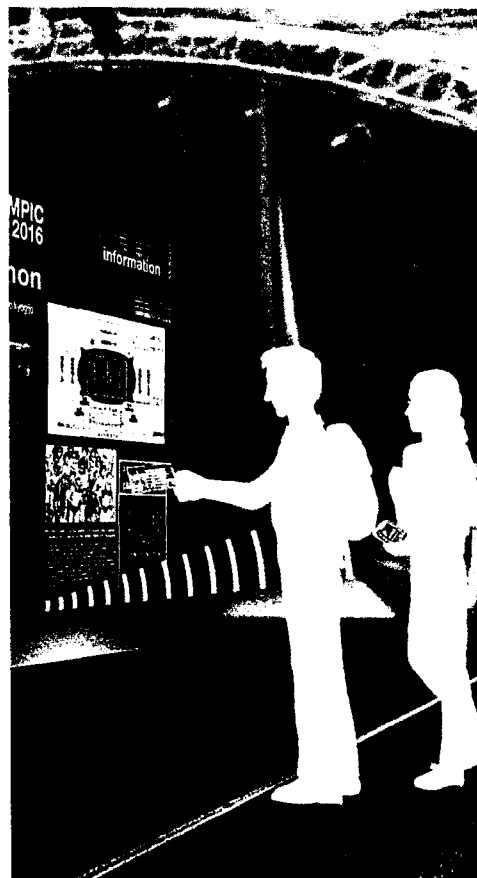
東京は、オリンピックの開催へ向けた都市づくりを通して、
〈地球都市〉という世界の見本都市となります。

先端技術を駆使した大会

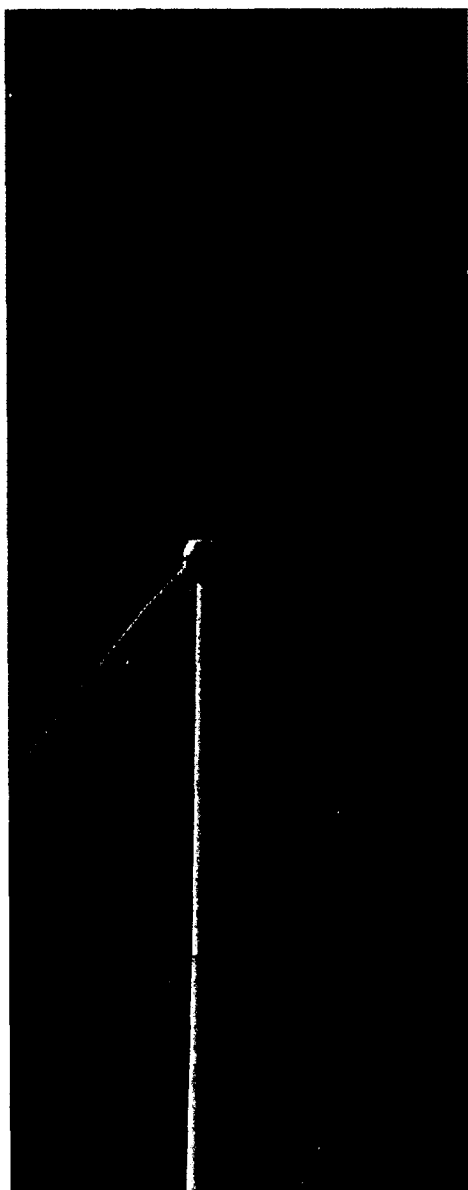


[先端技術のネットワーク]

- ユビキタスやロボットなど、日本が誇る科学技術の粋を披瀝するオリンピックを実現します。
- 安全対策、テロ対策など、様々な分野に最新の技術を導入し、来訪者に万全のセキュリティと快適な滞在を保障します。
- 観客やテレビ観戦者のため、だれも体験したことのない演出や観戦方法を提案し、これまでにない大きな感動を生み出します。
- 日本の最先端技術をパラリンピックに応用するなど、障害者や高齢者等がスポーツに親しむための技術開発に積極的に取り組みます。
- オリンピックで試された技術の成果を遍く世界に普及させます。



環境を最優先した大会



[都市と海とのネットワーク]

- 主要施設が東京湾の臨海部に配置される東京オリンピックは、海と陸とをつなぐ、みどりと水に囲まれた大会となります。
- 臨海部の埋立地に整備する「海の森(仮称)」を屋外競技場として活用するとともに、うるおいのある水辺空間を創出するなど、「みどりと水の都」の復活を目指します。
- オリンピックへ向けて、電線地中化などの取組みを進め、街路樹を増やすことで、東京のみどりを一層豊かにしていきます。
- ディーゼル車排出ガス規制の実績や、世界一省エネルギーな大都市を目指す取組みを活かし、これまでのどのオリンピックよりも環境負荷を徹底して抑制した大会を実現します。
- 大会までに、大会開催によって排出されるCO₂の総量を大幅に上回るCO₂削減を達成します。
- 既存施設を有効活用するとともに、新規の建造物において最高レベルのエネルギー効率を追求するなど、環境との調和を徹底します。
- 太陽光発電をはじめ日本が持つ最先端の環境技術を総動員して、選手村などのエネルギーを再生可能エネルギーで供給するとともに、廃棄物の全量リサイクルを目指します。
- 選手の移動などに、燃料電池自動車等最新鋭の環境対応車を導入します。また、縦横に発達した東京の公共交通網を活用し、だれもが環境負荷を最小限に抑えて移動できるようにします。

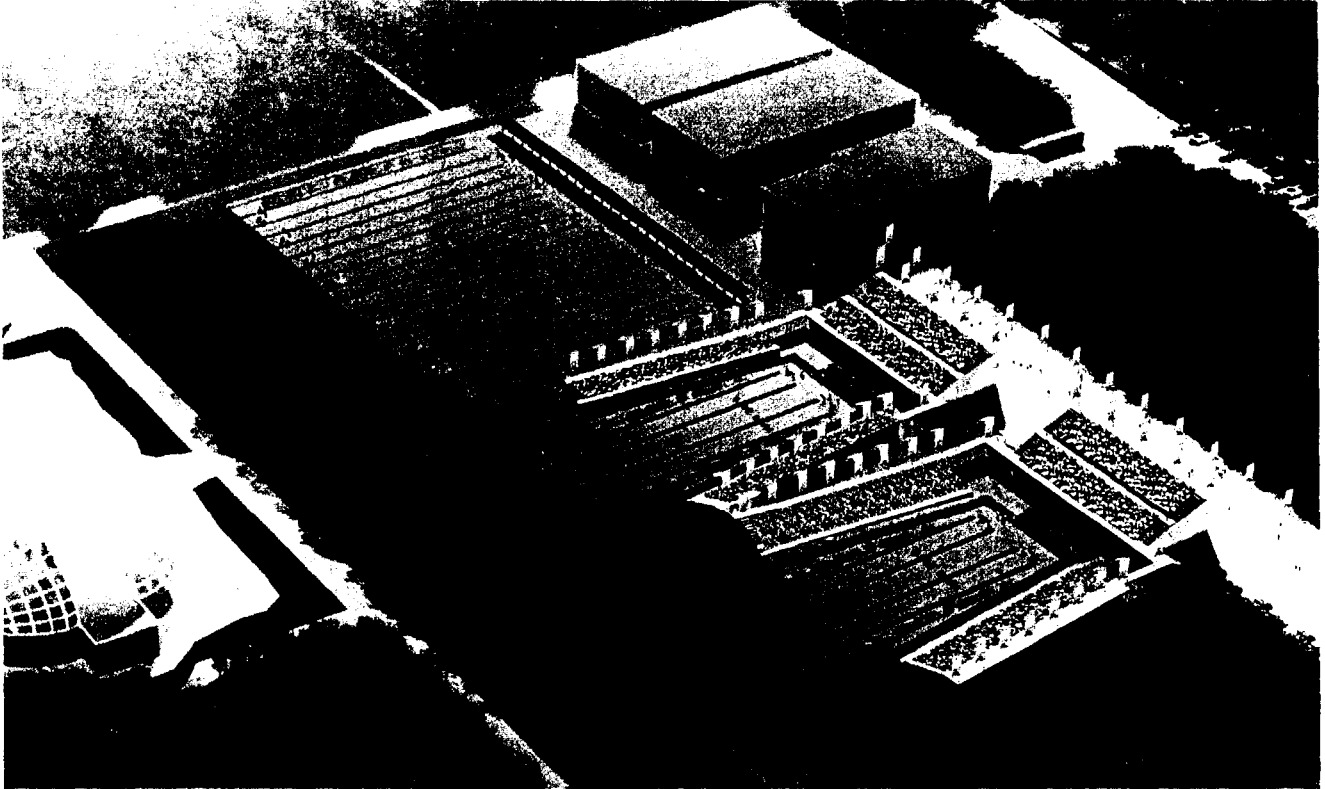


アーチェリー

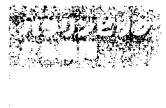
都内唯一の常設アーチェリー会場を有する夢の島公園で選手の集中力を高め、最大限の能力を引き出します。

競技会場

夢の島公園



※イメージ図です。



所在地：東京都江東区夢の島3-2

選手村からの距離と時間：5.6km、9分

完成予定年月日：2016.5.12（仮設）

施設概要 構造：鉄骨造 階数：地上2階

建築面積：7,820㎡ 延床面積：14,720㎡

競技施設 フィールド規模：140m×110m（15,440㎡、70m射程、4レーン）

観客収容人数：仮設4,000人

競技日程

8/11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
●				●	●		●		●																						

● 男子
○ 女子

建設コンセプト

夢の鳥公園全体の配置計画を見直し、公園東側にアーチェリー競技会場を整備します。後利用を視野に入れ、決勝ラウンドは仮設で整備しますが、練習場は、恒久施設として整備し、アーチェリーの振興拠点とします。

運営機能

競技施設は、南北のフィールドで北に的を設置し、260m×110mの広さを確保して天然芝を敷設します。数々の大会を開催してきた経験を活かし、スムーズな大会運営を行います。

練習場：90m射程・22レーン

選手・チーム役員用諸室：650㎡ / 更衣・マッサージ室、ラウンジ、待機室

役員・審判員用諸室：800㎡ / 国際競技連盟事務室、国際競技連盟会議室、審判員更衣室、上訴審判員室、事務室、会議室、結果・集計室、コンピュータ室、ラウンジ、器具保管室

VIP用諸室：450㎡ / 受付・案内、ラウンジ、会議室、表彰式控室

報道者用諸室：3,650㎡ / 作業室、インタビュー室、交信室、会議室、事務室、ラウンジ

メディカル関係諸室：300㎡ / ドーピングコントロール室、医務室

その他：4,800㎡

駐車場

普通車：150台 大型車：40台 バス：60台

環境

自然環境と調和したみどりと水のうおいある空間を創出するとともに、最先端の環境技術を活用して環境負荷を抑制します。

後利用計画

90m射程・22レーンの練習場は、そのまま残し、今まで同様に多数のアーチェリークラブの利用や個人向けのアーチェリー普及事業を引き継ぐほか、公式競技大会や強化選手の拠点としても活用します。

ホスピタリティ

インフォメーションデスクには、もっとも分かりやすい案内を提供するコンシェルジュを配置して観客のスムーズな移動を確保する一方で、託児所を設置するなど誰もが観戦を楽しめるよう配慮します。また、スポンサー活動を支援するスポンサーブレッジを併設します。

安全対策・その他

先端技術を活用した防犯・防災設備を導入するとともに必要な警備要員を配置し、競技中の事故や雑踏事故等の未然防止と緊急時の迅速な避難・誘導を実現します。

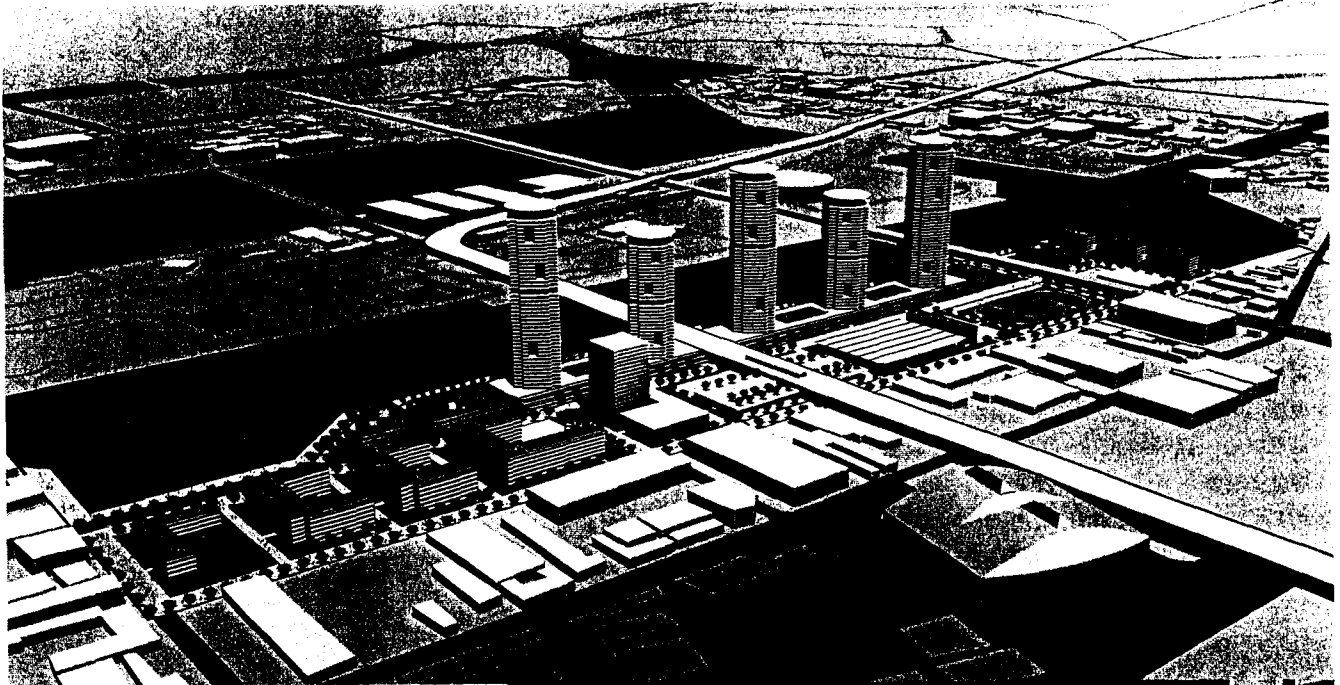
練習会場

競技会場を使用します。

オリンピック選手村

みどりと水、人と文化が交わる新しい街。
安全、安心、快適な空間が世界の選手たちを迎えます。

パラリンピック
でも使用



- 所在地：東京都江東区有明1丁目
- 村総面積等合計 約310,000㎡
 - 宿泊ゾーン：宿泊施設等 198,000㎡
 - トレーニング施設 74,000㎡
 - インターナショナルゾーン：38,000㎡
- 宿泊棟総床面積：312,500㎡
 - 収客人員：18,500人
 - 1ベッドあたりの床面積：約16㎡



※イメージ図です。

建設コンセプト

みどりと水に囲まれた自然の中で
選手が安全、安心、快適に滞在できる居住空間

オリンピック・シンボルを象徴する5本の宿泊棟のあるオリンピック選手村では、水辺を活かし、みどりにあふれた生活環境を創造するとともに、環境に最大限に配慮した施設整備を行います。

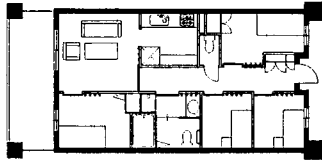
低層の宿泊棟も用意しつつ、選手に十分な広さの居住空間を確保するとともに、レジャー、医療等各種施設や最先端技術と日本のもてなしの心を活かしたサービスにより、快適で利便性の高い滞在生活を提供します。また、交流スペースを多数配置し、選手相互の交流を促進します。

すべての人が快適に利用できるようユニバーサルデザインに基づいてすべての施設を整備し、そのままパラリンピック選手村としても使用します。

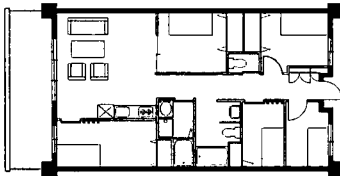
最新のセキュリティ技術や医療設備等により、警備、医療、災害に万全の対策をとり、選手村の安全、安心を徹底します。

運営機能

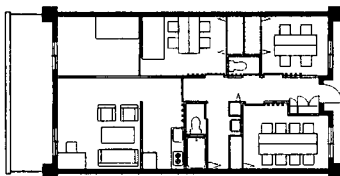
一般・車いす利用者向け宿泊施設
(Atype 4人用 64.20m²)



(Btype 5人用 80.24m²)



(選手団事務所 80.24m²)



I 宿泊ゾーン

選手一人ひとりに、快適な日常生活を提供する宿泊棟

選手には個室を用意し、最適なコンディションづくりを支援します。各個室は防音性と居住性を確保し、インターネット環境を整備して、大会の情報や映像を取り出せる情報通信サービスや母国のテレビ番組、映画、ゲームなどのアミューズメントをネットワークを通じて提供します。宿泊棟ごとにセキュリティシステムを導入し、部外者の侵入を防ぎます。

また、いつでも選手が楽しみながら交流できるように、各宿泊棟に交流プラザを設けます。加えて、高層棟、低層棟それぞれにスパも設置します。

サッカーとセーリングの選手には、会場周辺にサテライトビレッジ(分村)を設置しますが、オリンピック選手村にも宿舎を用意し、選手間の交流を支援します。

使いやすさに配慮した広いスペースの各国選手団事務所

各国選手団事務所は、打ち合わせや来客の対応など様々な用途に対応できるよう十分な広さを確保し、選手団の宿泊部屋の直近に設置します。高層棟の最上階には、グレードの高いレストランや展望室を設け、選手団の様々な催しに対応します。また、各住宅棟の地下に機材収納スペースを選手団ごとに設けます。

充実したトレーニング施設、多彩なレストラン、最新のレジャー施設

宿泊ゾーンには、400mトラック、屋内温水プール、ジョギングコース、屋内トレーニング場、多目的運動場、テニスコート等充実したトレーニング施設を設置します。またスポーツドクターも常駐する総合診療所では、東洋医学療法も提供し、充実した医療体制で選手をサポートします。

飲食に関しては、母国の家庭料理から一流料理まで選手の要望に応えた多彩な料理を提供し、選手の体調に直結する「食」に細心の配慮を払います。特に、日本食については専門レストランを日本庭園の中に設置し、器や建具にも気を配ることで、日本文化の真髄を味わっていただきます。

また映画館、クラブやゲームセンターからなる最新のレジャー施設や、日本の名所や風土を映像で紹介するバーチャルツアーセンター等の施設を設け、選手がリラックスして快適に過ごせる居住空間を提供します。さらに、競技に向けて精神の集中を高めるため、礼拝や瞑想の空間を設けます。



※写真は、イメージです。

グラウンドデザイン : 安藤 忠雄

(写真資料提供)

アマナ
アフロ
毎日新聞社
セブンフォト
データクラフト
Getty Images
落合泰三
札幌市
茨城県
川澄建築写真事務所
株式会社 東京スタジアム
財団法人 横浜市スポーツ振興事業団
大阪市
財団法人 東京港埠頭公社
新建築社
財団法人 東京都生涯学習文化財団
独立行政法人 日本スポーツ振興センター 国立代々木競技場
財団法人 日本武道館
テクニカル・アート
株式会社 東京国際フォーラム
株式会社 東京ビッグサイト
株式会社 東京ドーム
東京都競馬株式会社
社団法人 日本トライアスロン連合
大田区
株式会社 帝国ホテル
独立行政法人 国際観光振興機構
J-Power(電源開発)
三井住友海上火災株式会社
エックスワン
独立行政法人 日本スポーツ振興センター 国立スポーツ科学センター
財団法人 日本オリンピック委員会
独立行政法人 国際協力機構
(以上掲載順)

第31回オリンピック競技大会開催概要計画書

印刷物規格表 第2類

印刷番号 (18) 15

平成18年6月発行

編集・発行 東京都東京オリンピック招致本部
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 03 (5388) 2159

印刷 凸版印刷株式会社
(住所) 東京都千代田区神田和泉町1
(電話) 03 (3835) 5111

R100
古紙パルプ配合率100%再生紙を使用

本文用紙は古紙配合率100%を使用しております